

中塚 正大*

Masahiro NAKATSUKA*

激動の1997年が過ぎ去ろうとしています。1997年最終号である本号でレーザー学会の1997年を総括し、新たな年に向けての出発点にしたいと思います。

平成9年度のレーザー学会総会を5月28日に開催しました。会長として永年レーザー学会を指導されて来られた東京大学名誉教授 霜田 光一氏が任期満了となりレーザー学会顧問に就任されました。新会長には三菱電機(株)顧問 岡 久男氏(元同社副社長)が就任されました。10月には同じく任期満了のため、研究会委員会委員長が東京理科大学教授 豊田 浩一氏から九州大学教授 前田 三男氏に交代となりました。また、4月には事務局長に吾妻 健国氏が就任しました。

総会ではレーザー研究褒章として、功績賞(霜田 光一氏)、論文賞2件(オリジナル部門…(株)生体光情報研究所 常包 正樹氏、田口 昇氏及び東北大学 稲場 文男氏; 解説部門…(株)浜松ホトニクス 菅 博文氏、神崎 武司氏、宮島 博文氏、伊藤 之弘氏及び晝馬 輝夫氏)、進歩賞1件(日亜化学(株)中村 修二氏)、奨励賞1件(日本原子力研究所 山川 考一氏)の表彰を行いました。詳しくは「レーザー研究」25巻6号をご参照願います。

編集委員会(編集委員長:(株)イオン工学研究センター副社長 田畑 則一氏)では機関誌「レーザー研究」25巻1号~12号を特集号3冊(1号, 2号及び11号)と小特集号9冊として発行しました。すでに我々は「レーザー研究」を24巻5号(1997年5月発行)からDTP(Desk Top Publishing)による電子編集により出版してきましたが、25巻1号(1998年1月発行)からA4版サイズとし、それを契機に目次、論文、セルフフォーカス等、主要記事の掲載スタイルを一新しました。これによって、所期の目的であった掲載論文のデータベース化と編集・出版の合理化のための一連の改革を一通り終了したことになります。

研究会委員会はレーザーに関する研究成果発表と情報交換のため、1997年に専門分野別の研究会を12回開催しました。そのうち7回をレーザー学会による単独開催の研究会とし、5回を他学会との共催による研究会として開催しました。1998年はレーザー学会創立25周年に該当するところから、当学会単独開催の研究会のうち、第242回研究会(テーマ: レーザーコンプトン光発生と応用)を新規に創立25周年記念研究会として開催し、最近話題の多いこの分野の研究に真摯なインパクトを投じました。さらに従来電気学会と共催の研究会であったレーザープロセッシングに関する研究会を創立25周年記念第244回研究会としてレーザー学会単独で開催しました。この分野はレーザーアブレーションやレーザーアニーリング等、産業技術としての実用化にむけて最も研究開発が活発な分野の1つであり、50名以上の産・官・学の研究者が熱心な発表と討論を展開しました。

他に創立25周年記念行事として1)Home Pageの開設(12月上旬。 <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/laj/>), 2)「レーザー研究」記念特集号“ここまで来たレーザー応用”の発行(26巻1号), 3)APLS '98 (The 1st Asian Pacific Laser Symposium. 於 濟州島 1998年4月27~29日, 日・韓・中国主催。参加募集中)の開催, 4)記念講演会(1998年5月29日)開催, 等を計画実行しています。

専門委員会としては昨年度に引き続いてX線工学専門委員会(主査: 姫路工大教授 望月 孝晏氏), レーザーパワー産業応用専門委員会(同: 東海大教授 藤岡 知夫氏), およびレーザー素子の機能性向上に関する専門委員会(同: 大阪工大教授 吉田 國雄氏)をそれぞれ4~5回開催し、20名~45名の産・官・学出身委員が共同で上記3分野の国内国外の研究動向を調査するとともに、先端科学技術として今後の成果が目される同分野の展開について有益な情報交換を行いました。それらの調査結果は専門委員会終了後、各々「レーザー研究」の特集号として公開される予定です。

レーザーセミナーはレーザー技術を広く世間一般へ啓蒙・普及させるとともに、今後のレー

ザー技術の研究開発や産業界への実用化促進の担い手を確保するための重要な使命を担っています。今年は；

- 1) 高校生以上を対象とした最も啓蒙的なセミナーを延べ3回(“レーザー普及セミナー”, テーマ:「明日を担うレーザー科学」1回, 及び実習を伴う“レーザー学会創立25周年記念学生セミナー”, テーマ:「見て, 聞いて, 触れるレーザーセミナー」2回)
- 2) 理工系大学生や一般技術者を対象にしたセミナーを2回(東京支部主催“若手技術者と学生のためのレーザー応用セミナー”, および“レーザーセミナー'97”, テーマ:「躍進するレーザー先端技術」を各1回)
- 3) レーザーの専門研究者・技術者を対象としたアドバンスドレーザーセミナー(“レーザーセミナー'97(技術コース)”, テーマ:「固体レーザーの開発動向と新しい展開」)を大阪, 東京で各1回開催しました。

レーザー学会の最大行事である学術講演会第17回年次大会(実行委員長 京都大学教授 藪崎努氏)を1月23, 24日京都で開催し, 招待講演3件, 招待講演52件, 一般講演182件の発表を行いました。参加者は延べ400人を越え, 盛況でした。併せて展示会“LASER EXPO '96”を開催し, 出展小間数45室, 来場者860名を数えました。来年1月22日, 23日にはつくば市内でレーザー学会学術講演会第18回年次大会(実行委員長 工業技術院 電子技術総合研究所 光技術部部长 矢嶋 弘義氏)を開催すべく準備を進めています。

レーザー学会支部として, 既存の東京支部(支部長: 東京理科大学教授 豊田 浩一氏), 九州支部(同九州大学教授 前田 三男氏), および東北・北海道支部(同東北大学教授 宮城 光信氏)に加えて, 本年12月に中国・四国支部(支部長: 広島大学教授 山西 正道氏)が誕生しました。本年は本部との共催研究会の開催2回, 支部独自の研究会5回, 講演会20回以上を実施し, 活発な活動を行いました。

このようにレーザー学会では本年も日本におけるレーザー研究とレーザー産業の一層の発展と活性化のため, 全力を傾けて不断の努力を続けてきました。

周知のように21世紀は電子に代って光が主役の時代とされています。端的に言えば光の技術を制する者が世界の先端技術を支配することになります。すなわち21世紀に向って日本のレーザー研究はますますその重要度を増すことはあっても, 減退することはあり得ません。しかしその一翼を担う当学会の会勢は時節柄, 会員数, 事業収入ともに横這い状態にあり, 経営的に必ずしも楽観を許さない状況にあります。我々は1998年以降, 25周年記念行事や会誌発行その他の定常的学会活動を通じて, 今まで以上に会勢拡張に努力する所存ですが, 今後増大するレーザー学会の使命を滞りなくまっとうするため, 会員各位及びに関係各位になお一層の幅広いご支援とご指導を願う次第です。

末筆となりましたが, 去る10月22日, レーザー学会創設時から当学会の活動の中心的役割を担って来られた近畿大学理工学部長(元会長, 現理事)久保 宇市先生が逝去されました。誠に残念であり, 当学会にとって大変な損失ですが, 会員各位とともに故人のご冥福を衷心からお祈り致したく存じます。

* 大阪大学レーザー核融合センター, レーザー学会常務理事 (〒565 大阪府吹田市山田丘 2-6)

* Institute of Laser Engineering, Osaka University, Exective Director of The Laser Society of Japan, 2-6 Yamada-oka, Suita Osaka 565